

赤ちゃんが泣きやまないとき

？ まず、どうすればいいの？

いわゆる「夜泣き」や「かんの虫」という場合がよくあります。そんなときは、赤ちゃんをだっこして、散歩でもしてあげましょう。安心して泣きやむことがあります。



便秘気味の場合は、綿棒による肛門刺激(綿棒浣腸)やグリセリン浣腸をしてうんちを出してあげると、腹痛がおさまって機嫌がよくなる場合があります。

！ すぐに受診した方がよいとき

- 便秘でもなく、だっこをしても激しく泣いて泣きやまないとき
- 血便が出たとき
- 普段と泣き方が違うとき



浣腸の仕方は？

綿棒浣腸

生後半年ぐらいまでは、綿棒により刺激します。

- 1) 綿棒の先にオリーブ油などの潤滑油をつけます。
- 2) 肛門に浅く(綿の白い部分がかくれるくらい)差し込んで肛門の内側を刺激します。



グリセリン浣腸

市販のグリセリン浣腸(イチジク浣腸[®])には、10g(乳幼児用)、20g(小児用)、30g(大人用)、40g(大人用・大容量)があります。子どもの年齢に応じた適切な容量を使用してください。

- 1) キャップをはずし、先端にオリーブ油などをつけます。
- 2) 細い部分がかくれるまで十分に肛門に差し入れます。
- 3) ゆっくり注入し、入れ終わったら、おむつやティッシュペーパーで肛門をしばらくおさえ、できるだけがまんさせます。



1歳未満は、おむつをかえるとき姿勢で

1歳をすぎたら横むきで



口をあけて「ハーッ」と息をさせると入りやすい

